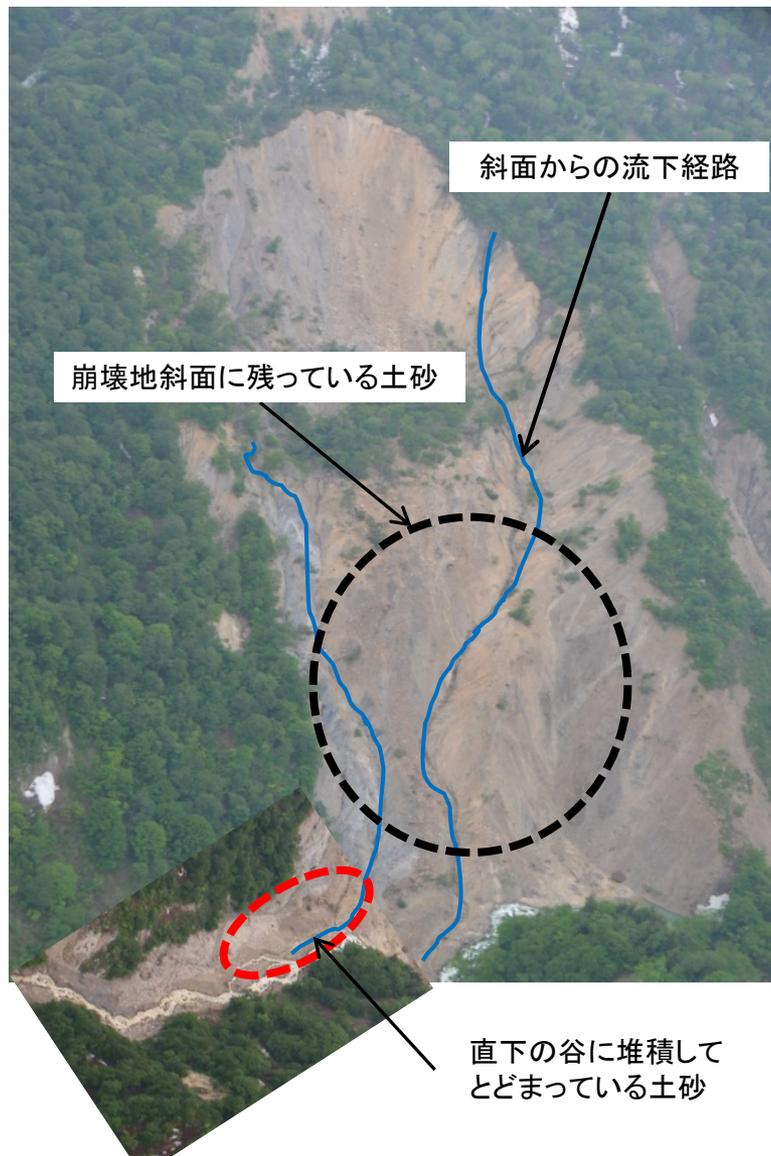


# 手取川上流の大汝国有林における 当面の崩壊地対策について

平成27年6月12日  
林野庁近畿中国森林管理局  
石川森林管理署

# 現地調査(6/2実施)の概要

## 崩壊地全面



■泥成分を多く含んだ土砂が、まだ崩壊地斜面に残っていることが確認されたところであり、それらが浸食されて、流出する可能性がある。

また、5月に流出した土砂の多くは、直下の谷に堆積してとどまっている状態にある。

■このことから、当面は

- ①崩壊斜面の対策を行いつつ、
- ②流出した土砂対策や
- ③梅雨で雨量が増えた時にどの位濁るのか経過観察する必要がある。

「6月2日ヘリによる現地調査における有識者コメント」より

# 崩壊地に係る応急対策の内容について①

泥成分を含んだ土砂の発生箇所で、ヘリコプターによる応急対策を実施



## 【対策①：崩壊斜面の対策】 （吹付工の実施）

浸食防止剤※を崩壊斜面に散布し、表土を凝固させることにより土砂流出防止を図る

（※人・魚類に対する毒性がなく、6～12ヶ月で土壌化する素材。ただし種子は含まない）

＜吹付工のイメージ＞



施工前



施工中



施工後

# 崩壊地に係る応急対策の内容について②

泥成分を含んだ土砂の堆積箇所で、ヘリコプターによる応急対策を実施

## 【対策②：流出した土砂対策】 （袋型根固工の実施）

大石を袋詰めした資材を崩壊地の根元に投下・設置し、土砂流出防止を図る

<袋型根固め工のイメージ>



設置前の資材



施工後



# 崩壊地に係る応急対策の内容について③

応急対策の実施箇所や濁水の発生状況を経過観察し、効果をモニタリング

## 【対策③:モニタリング】 (対策効果の見極め)

- ◇雨量や濁水の発生状況と併せてヘリコプターにより施工地の状況を観察し、対策の効果を分析。
- ◇北陸地方整備局金沢河川国道事務所等とも連携しつつ、河川の状況をモニタリングし、その結果を、本連絡会等の場に逐次報告。
- ◇梅雨期、台風期を通じて対策の効果を見極めつつ、有識者の助言を得ながら、必要な対策を引き続き検討。

# 応急対策に関しての有識者のコメントの要旨

- 崩壊斜面には湧水点が確認され新たな浸食が進む可能性があることから、泥成分が堆積している斜面の中段から下段を優先して表土の移動を抑え、斜面全体の安定化を図る必要がある。
- 崩壊した土砂は斜面に堆積しており、溪岸浸食により不安定化し再び移動する可能性が高い。そこで簡易な構造物を斜面脚部に設置し、安定化を図る必要がある。  
なお、濁水の濾過機能や沈下防止のために吸出防止材を用いることも考えられる。
- 手取川崩壊地対策プロジェクトチーム(以下、「PT」という。)の提案している崩壊地斜面の「吹付工」、堆積土砂に対する「袋型根固工」は、アクセスなどの面で既存の対策工が実施できないという極めて制約のある中で、応急的に実施可能な対策と思われる。
- 今回、PTが提案している崩壊地対策は、濁水軽減に向けた試行的なものであり、濁水発生状況や流量の継続的な「モニタリング」を通じて、今後流域全体の保全・管理に関する検討が進められる必要がある。